

# 桜陽会報

Otaru Ouyou high school

Vol. 105



## 目次

桜陽会入会おめでとう

名誉会長・学校長

和田 明

3

卒業と桜陽会入会のお祝い

桜陽会 会長

武川 俊司

5

節目を迎えて

第65代執行委員長

尾久 拓也

9

会員企業紹介

株式会社 光合金製作所

11

我ら桜陽人

ザ・ニュースペーパー

渡部 又兵衛

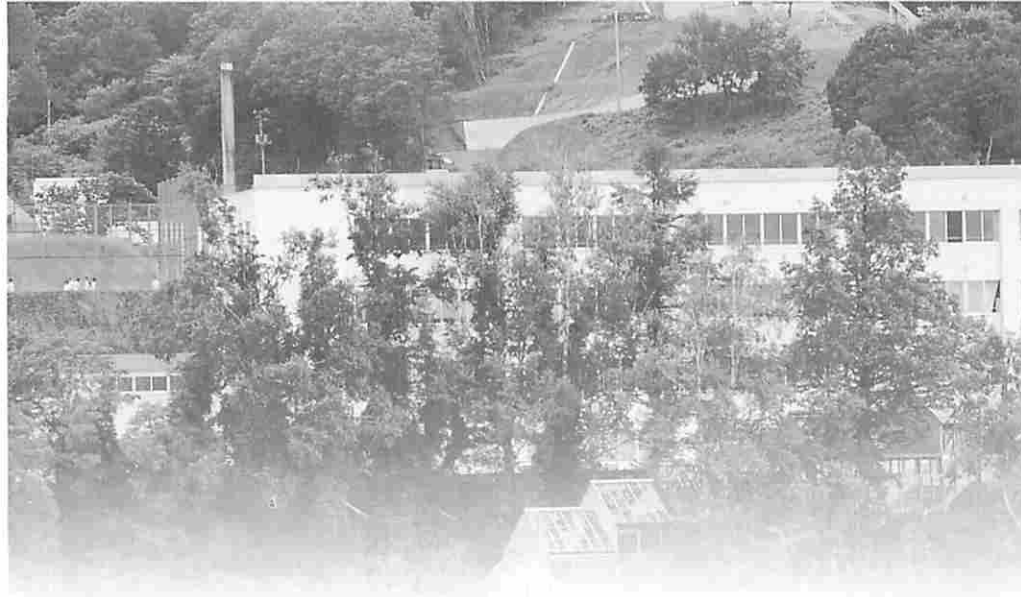
14

桜陽会裏話

高二期

岩城 博子

16



おやじの呟き

桜陽高等学校26期卒業

東田 朋己

18

クラブ活動報告

20

桜陽会会則

23

桜陽会役員機構

25

平成24年度 第65回卒業生（同窓会幹事）名簿

26

## 編集

桜陽会常任理事

勝 又 英 夫

# ご挨拶



## 桜陽会入会

## おめでとう

名誉会長・学校長

和田 明

卒業生の皆さん、輝かしい伝統ある桜陽会への入会おめでとうございます。本校の同窓会は明治に開校した北海道庁立小樽高等女学校にはじまり、現在の名「桜陽会」は、昭和6年につけられ、本校の校名「桜陽」も昭和25年新制高校発足時に同窓会からいただいたものです。桜陽会は毎年6月の総会を始め、毎月開催される理事会など継続的に活動され、学校祭や部活動への支援など、様々な形で学校をサポートしていただいております。その組織と活動実績は道立高校の中でも群を抜いていると言えます。

さて、高校を卒業してしまいますと、歳月とともに、学校とのつながりが薄れていくものです。そんな中、卒業生と母校をいつまでもつなぐ存在が同窓会です。昨年の桜陽会総会では、200名ほどが参加され、久しぶりに会う友人や恩師との会話が弾み、皆さん大変楽しそうでした。桜陽会の存在の大きさをあらためて感じました。

厳しい時代ですので、生徒達が卒業してどんな状況にさらされるか心配です。卒業しても、学校を忘れないでください。何かあれば、高校に来てください。歓迎いたします。明るくのびのびと活動する在校生の姿を見てい

ただけだと思います。必ずや元気が出ることでしょう。

## △会員の皆様へ▽

学校の近況としてＪＲバスからいただいた手紙（抜粋）を以下に紹介します。

### 【拝啓 桜陽高校様】

先日、桜陽高校の男性の学生さんが弊社のバスをご利用していただいた際、大変心温まる出来事があったようで、乗務員から申告がございまして、感謝の気持ちを伝えたくて乗務員の気持ちを代弁し、今回お礼のお手紙を書かせていただきました。

6月7日のことですが、小樽発札幌行き便をご利用していただいた桜陽高校の学生さんが新光のバス停で下車し歩いていたら、反対方向から坂道を急いで上ってくるおばあさんを見つけ、それを見かねた生徒さんが、わざわざバス停まで引き返し「運転手さん、ちょっと待っていてもらえないでしょうか」と、一言を言いにくてくれました。

もし、おばあさんが発車時間に間に合わなかった場合、あやうくおばあさんを残して発車してしまうところ

でしたが、その学生さんのおかげで、無事におばあさんに乗せることができました。また、その時、バス車内にいた他のお客様からも感嘆の声が聞こえてきて、終点に着くまでバス車内においてもずっといい雰囲気が続き、乗務員も大変気持ちがいい状態で運転することができたそうです。

最近、ニュースでも頻繁にバス事故が取り上げられることにより、私たちに対するお客様の見目が大変厳しくなってきました。そのような中、桜陽高校の生徒さんの行動によってきつとバスへの信頼する気持ちが離れていったお客様が、再び私たちバス会社への信頼の気持ちを取り戻すきっかけとなってくれることでしょう。また今回その当時バスに乗っていたお客様全体が本当にホッとするような暖かい気持ちに包まれたことを直に乗務員が感じ、また、会社全体でも改めて人を思いやる気持ちの大切さをその学生さんから学ばせて頂きました。」

最後に、貴会の活動が益々継続発展しますことをお祈りいたしますとともに、皆様のご多幸をお祈りいたします。



## 卒業と 桜陽会入会のお祝い

桜陽会会長

武川 俊 司

卒業生の皆さん、三年間の高校生活を終え、卒業されますこと、まことにおめでとうございます。そして桜陽会への入会を心から歓迎いたします。

桜陽会の会報は現在のところ、年に二回発行されており、この会報は三月の卒業式の時期に発行されるので主に卒業生の皆さんへのメッセージが多くなるうかと思いますが、会員全員でお祝いしたいと思います。

冒頭にも書きましたが、先ず最初に卒業と同時に桜陽会に入会することをお知らせしたいと思います。ご承知のように桜陽高等学校の同窓会である『桜陽会』は前身の『序立小樽高等女学校』の時から百年を超える歴史を持ち、これまでの会員数は皆さんの卒業証書ナンバーを見るとわかるように三万名をはるかに超えています。もちろん百年以上の歴史があれば初期の先輩たちはすでに物故されている方もあり、それを除いても二万五千人を超えるのではないかと思います。新会員の皆さんにも是非ご協力をお願い致します。

話は変わりますが、最近あまりにも驚くべきニュースが社会をにぎわしています。大阪の高校（たまたま本校と同じ頭文字に「桜」の文字を持っているが）の例は長い伝統

を持つ学校では似たような例が、あるいは少し前まで有った学校も少なくないのではないでしょうか。もちろん本校もそうだったという訳ではない事を最初にお断りして、私の中学校時代の思い出を少しお話ししようと思います。卒業してから何年もたち、大人になってから聞いた話です。

私の中学二、三年生の二年間を担任してくれた先生は性格が几帳面で真面目で、ご家庭でもとても愛妻家の男性の先生で、専門は技術家庭科でしたが、私たちのクラスだけは数学も担当しました。教え方が順序だつていてとても分かりやすく、そのためか数学のクラス平均は十二クラス中、常にトップ、又はそれに準ずる点数を取っていたそうです。

真面目一方で勉強ばかりさせている先生かと言うと決してそうではなく、課外活動や生徒会活動、体育大会などにも積極的で、生徒会の選挙の際にはすべてのポストにクラスから候補者を立てさせたりもしました。バレーボールの試合などでは部活でやっている選手が私のクラスには一人もいないのに、バレー部員を数名抱えている優勝候補のクラスと決勝戦を戦い善戦したことは良い思

い出となっています。また、夏休みにはキャンプにも連れて行ってくれ、生徒とともに過ごす時間を大切にしていたものです。

私たちは団塊の世代ですので多分当時は一クラス五十人くらいだったと思いますが、その中に二人ほどお話ししたい人がいます。もう卒業して五十年近くたちますのでお話しても構わないと思いますが、一人は二年間の間数えることが出来るくらいしか学校に来ていませんでした。仮にA君としますが、彼は本人の気持ちや環境にも左右され、今で言う不登校状態で、多分彼は私の顔も覚えてはいないでしょう。そういう状態の生徒であることを承知で、先生は二年生のクラス編成をする時に自分から担任を希望したそうです。そして当時の学校の先生たちにはまだそんなに多くはなかった中型のスクーターを購入し、彼を毎朝迎えに行っていました。彼を迎えに行くためにスクーターを買ったのです。それでもなかなか学校には居つかなかったようですが、何とか卒業をすることが出来たようで、成人後、調理師免許を取って、全国組織の大病院の厨房に勤務し、先生を喜ばせたそうです。

もう一人はB君としますが、私とは小学校からの同級

生で、家も近所でよく一緒に遊んだりしました。ところが中学も後半になり少し悪い連中と親しくなり、行動が乱れたようです。私とは生徒会活動やクラブ活動が違うので交友範囲が異なり、また前述したように人数も多かったので距離の遠いグループや近いグループなどいろいろあり、お互いに少し付き合いが薄かった時期でもありました。しかし私は小学校からの付き合いですので彼の人懐っこい性格は良くわかつているのですが、彼の大きな体格のせい、またゴツイ風貌のせい、いわゆる不良グループに目を付けられたようです。彼自身はそんな気はなくても、相手から来たりするのでつい男気が出ることもあったのでしょうか。そうするとまた周りからそういう目で見られ、彼自身も生活態度が乱れて行ったようです。

そんなある日の放課後先生はB君を教室に残し、どんなお話の後かは知りませんが、『眼鏡を外し、歯をくいしばれ!』と言って横面を一発平手打ちしたそうです。その後どのくらいの日時を要したのかは私にはわかりませんが、B君は立派に立ち直り高校卒業後市内大手の土

木会社の幹部にまでなったそうです。

先生はB君を平手打ちした後、自ら校長に報告し、処分を求めたそうですが、校長も普段の先生をよく知っているので結局処分はされなかったようで、その後数年を経て教頭へ、さらに校長にと昇進され、後志各地に赴任されました。校長に報告し、処分を求めたという事は当然のことながら五十年前でも体罰は禁止されていたという事でしょう。

卒業後、ずいぶん間が空いたが、定期的にクラス会を開くようになり、さらには先生のお住まいが小樽市内という事もあり、年に一、二度ご自宅にお伺いするようにもなりました。そうした折、先生は彼を心から懐かしみ『A君に会いたいなあ!』と毎回のようにおっしゃっていました。また、B君は小樽市内に居住という事もあり、いつも一緒に先生の自宅にお伺いしていましたが、『あの時の先生の一発で目が覚めました。あのままではどうなっていたか分かりませんでした。有難うございました。』と繰り返し感謝していました。およそ手を上げそうにもない温厚で理知的な先生の一発が強烈な効果を彼にもたらしたのでしょうか。



だからと言って私は「許される体罰もあるのだ」などと言うつもりは有りません。先生がB君以外にも手を上げたという話も聞いたことが有りません。ただ、この事と大阪の一件とは同じに考えてはいけなと思っています。す。今回の大阪の事件（あえて事件と言います。）は体罰ではなく暴力、暴行事件です。体罰と呼ぶ事も出来ません。結果その生徒が死んでいます。

まだ体罰と呼ぶなら教育的な視点や生徒の事を思いやる事が、過剰であったり、又はやり方が違つて居たりすることでしょう。今回の事件ではその生徒の成長のためよりも、学校の名誉、部の名誉、しいては指導者の名誉を保つための行為であつたように聞こえます。となると母校の伝統と言うものを声高に言うのも慎重にしなければならなくなるのでしょうか？今回当該学科の入試が中止となり、受験を目指していた生徒には大きな影響が出ています。現役の生徒からも伝統を守りたいとの訴えもありました。一部保護者からは当該教員を弁護、評価する声さえあると聞きます。しかし、繰り返しになりますが、生徒が一人自ら命を絶つています。絶対にあつてはならない事です。

既に長い人生を歩んできた我々には、若い頃の一年などは何でもないと言えるでしょうが、横一列で歩んでいる十五歳の受験生や、突然下級生が入つて来なくなつた在校生たちには果たして一年間は短いものなのでしょうか。数か月前の文部科学大臣の発言にも動揺した受験生も多かつたでしょうが、結局しわ寄せは生徒たちへ行くのです。どうも政治家や行政は生徒の気持ちを理解していないようだし、学校内部の人は世間の感覚と距離が有るのかもしれない。今回の事は大変大きな事件ですが、学校や部の伝統という事も含めて冷静に議論することが必要でしょう。何もしない事も良くないけれど、極端な対策でまるで『あつものに懲りてなますを吹く』というのめいかなものかと思われます。結局影響は生徒たちに及ぶのですから。

近年いじめで中高生が自ら命を絶つという胸を傷めるニュースも聞きます。最後に強く中高生の皆さんにお願いしたい。命は大切にして下さい。他人の命も！自分の命も！



第65代執行委員長

尾久拓也

## 節目を迎えて

三年間過ごしてきた桜陽高校での高校生活を終え、これからはそれぞれの道に進んでいくことになります。思い返せば、これからの高校生活への期待と不安を抱きながら入学してから早三年が経ちました。その三年間で楽しいこともあれば辛いこともありましたが、互いに切磋琢磨しあえる仲間にも恵まれ、充実した高校生活を送ることができました。

この三年間での日々を思い返していくと、本当に沢山の思い出があります。入学早々にあった宿泊研修、中間考査後の遠足、夏休み前の桜陽祭、前期最後の行事である球技大会、高校最大行事の見学旅行、そして卒業式。三年間でこれらの行事を行っていき、新年度になると後輩が入学して自分たちは先輩になっていく。それを繰り返して、私たちは卒業を迎えることとなりました。行事に関して言えば、私は一年生の後期から生徒会に所属し、進行する立場にいました。もちろん、七〇〇人以上いる全校生徒をまとめるのは簡単なことではありませんし、私自身そういう能力に長けていたわけではなかったのですが、苦労することが多々ありました。それでも、いつも支えてくれる執行部の仲間たちや先生方の力もあり、なんとか三年間挫折せずに続けていくことができました。

この3年間で私は、何が人生を変えるかわからないということを学びました。私にとって執行部への入部がそうです。私はそもそも違う部活で高校3年間で過ごそうと中学の頃から考えていました。ところが、入部して数カ月後、部活動関係で少し悩んでいたある日、部活の先生に執行部への入部を勧められ、気が付いたら執行部で過ごす日々が当たり前となっていました。ただだか18年しか生きていない子供が何を語っているのだから……と思うかもしれませんが、今の私の立場がその証拠です。

そして、これからの人生でも大事になるであろう、人と人との繋がりの大切さを実感しました。執行部である以上、全校への行事の方針提示や諸連絡が重要です。さらに、各クラスはもちろん、時には部活動の力を借りる時もありました。確かに、言われたらやるしかないかと半ば諦めて手伝っていたかもしれませんが、それでも事前に相手から打合せや質問をしに來たり、合間に談笑したり……と、以前まで関わりがなかった人との繋がりが出て、いざというときは気軽に仕事を引き受けてくれたりと非常に心強い存在へと変わっていくことが多々ありました。

始まりこそ軽かったものの、私にとって執行部で過ご

した3年間は非常に大切な日々でした。そして、これからは私たちの後輩がそのバトンを受け取り新しい桜陽高校を創っていくこととなるでしょう。

もちろん、執行部だけではなく各部活動もその通りです。私たちが部活動を引退した後を引き継いだ下級生たちは新しく部活動を創り上げています。先輩から後輩へ。これも人と人との繋がりがあるからだとは思いますが。そして、この経験がこれから先の人生で絶対に役に立つと私は思います。

私たち第六五回卒業生を最後に、小樽桜陽高等学校の〈全日制普通科〉は終了となります。私たち卒業生がこれから新しい道を進むように、この桜陽高校も一つの節目を迎えます。100年以上も続いた伝統の最後の学生となれたのは非常に光栄なことでもあり、それと同時に大きな責任を背負うことになります。ですが、この学校で学んだことをこれから生かしていき、小樽桜陽高等学校全日制普通科最終学生として恥じない人生を送れるように頑張ります。

最後になりましたが、諸先生方や学校関係者の皆様、3年間ありがとうございました。卒業生を代表して心より感謝申し上げます。

株式會社  
光合金製作所

# 會員 企業紹介

株式会社光合金製作所

代表取締役 井上 晃

## 創業のころ

弊社、光合金製作所は、昭和22年1月に長橋で創業しました。現在の衣料のしまむらさんのところに当時あった、鉄工所の一角にて、戦後間もない食べるものすら満足にない時代のことだったといえます。弊社の創業者は、私の祖父で、戦中、鉄工所で仕事をしていましたが、終戦で仕事がストップ。ほぼ何もないところから、戦前から少し手掛けていた給水栓（水道栓）分野の仕事を携えてのスタートです。弊社は、冬に水道凍結を防ぐための水道バルブ「水抜き栓」のメーカーです。寒い夜に、またお出かけの時に水道が凍ったら困るので「水抜き」をするときの、あの栓です。当時は、各戸の台所に水道があることは稀で、街角にある消

火栓のようなもので「共用栓」に水汲みに行っていた時代です。金属材料は粗悪で不純物交じりの物が多く、生産加工に必要な燃料油も配給されていた時代だそうです。今からは想像つかない、そんな戦後の暗い空気を跳ね返し、世の中が少しでも明るくなるようにと社名は「光」とつけたのだそうです。

## 昭和30～40年代

日本は、戦後の焼け野原から世界が驚く高度経済成長をしたのがこの年代です。私共の分野でいうと、各家の台所に水道が付き、湯沸かし器が普及し、新築時に内風呂となり、トイレは順次水洗化されていったという、急速に水道需要が増加した時代と云えます。

この時代に弊社は、寒冷地水道バルブの自社ブランド自社商品開発を強く指向し、開発・製造・販売というバルブメーカーとしての（今風に云う）ビジネスモデル

ルが確立されました。

## 昭和50、平成の現在

日本の子供の児童、生徒、学生時代は、このような近代の歴史を学ぶ機会に、まったく恵まれていません。歴史上、つい最近のことが学校では学べないのです。ふつう、高校や大学を出て就職します。就職すると、仕事に埋没し足元のことを中心に考えがちです。この時代、日本の経済成長で所得が増え、物的豊かさも急増した時代ですが、小樽は高度経済成長から取り残され、「斜陽」の街として残っていました。この国の地方都市の云わば倦怠感と戦いながら、観光が脚光を浴びたのはつい最近です。弊社でも、世の中の技術革新に取り残されぬよう、水道の遠隔操作技術や自動制御技術を実験し、導入を図り、より安定的に、より便利にと商品開発を続けてきました。

## 母校

私の父は、弊社の二代目で、母校も同じです。父は高校4期、私は高校34期生です。

恥ずかしながら、私の高校生時代は、頭の先から手の

先足の指先まで野球小僧でした。雨の日も、日曜日も、夏休みもいつも練習していました。自分に負けながら(打ち勝とうとしながらでは、残念ながら、ない)、何かに取りつかれたように毎日毎日、白球を追っていた日々でした。当時の唯一の楽しみは、練習後の仲間とのカップめんとアイス(クリーム)だったのを思い出します。結果の先読みをせずに、ただひたすら走って、汗をかいていた、ということしか言えないのが……。しかし、体力だけではなく、結果的に「心に筋肉」をつけたのも、この時代だったような気がします。友がいた、仲間がいた、一緒にボールを追った、笑った、泣いた、がすべて



本社社屋の全景

ありました。平成の、結果が全てと云われて平気な時代に、私にとってこの高校時代は貴重な基礎体力が培われた時代なのかなあと 생각합니다。

## しづくしづく

私の高校時代に習った世界の地理、国々は、いまは分離独立、名前も変わり考え方も変わった…。私は、国名が変わっていくことが無意識に「無い」と思い込んでいたような気がします。国名が変わらなくても時代の事情で考え方が180度変わった国もあります。「変わる」と「当たり前」と考えると、見えてくることがあります。他人や他国が変わると自分や自国に影響する。そのときの耐性、適応性を持つていなければ、当方がおかしく、へんてこなことになるということです。今、弊社の新入社員によく言うのは、「社会に出てから、新しい友を作れ」、「30才台になったら、また新たに友を作ろう。意識していない

と友は増えない。増えないと生きる力が弱る」ということです。「よく働き、よく稼げ」では、前に進む力が必ず弱っていくと思っています。

同窓というだけで、年代を越え仲間や友が増える可能性が上がるのは、とてもありがたいことです。自分の足跡がたくさんの方々と交錯していることは、その後の自分に見えない勇気をくださっていることなのだと思っています。



かなり観念的なことを綴りましたが、一番多感な高校時代は、その後自身が生きていくなかで、ほぼ無条件に好影響を及ぼしているというのが実感です。「出来なかったこと」がその後プラスになることがたくさんあるのです。「暗黒

の高校時代」と思おうが、「汗ほとばしる青春時代」と思っていようが、実は、日本人は優しく、そして強いのです。

卒業おめでとうございます。これから、生きる力をつけていきましょう。

# 我ら桜陽人



ザ・ニュースペーパー

渡部 又兵衛

平成二十四年度卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私もあの眩しかった期待と不安にみちたあの頃を思い出します。

私は今から四十四年前、昭和四十四年度、桜陽高校を卒業した卒業生です。当時はまだ旧校舎で、『眼をはなて海遠く、風かがやかし丘の上』と校歌に歌われている通り、風光明媚な環境のいい高校生活だったなあと、今になって思います。携帯電話もパソコンも何もないのどかな高校生活でした。あの頃から比べると高校生活も、ずい分と変わった事でしょう。私は石山町だったので歩いて通っていましたが、バス通学の人も多かったです。吹雪

の中、いつ来るかわからないバスを、ポケットに手を入れ足踏みしながら、じっと待つ姿が思い浮かびます。私の高校時代は演劇部に入り、三年間演劇に夢中になりました。三年の時は、小樽市内の全高校の演劇部が集まって合同公演も演りました。おかげで、勉強の方はさっぱりでしたが、？いつしか、私は役者になることが、夢になりました。そして私は夢に向かって、卒業後、演劇の大学に四年通い劇団民芸に入りました。八年間いまして、一見夢が叶ったように見えますが、役がついたのは、



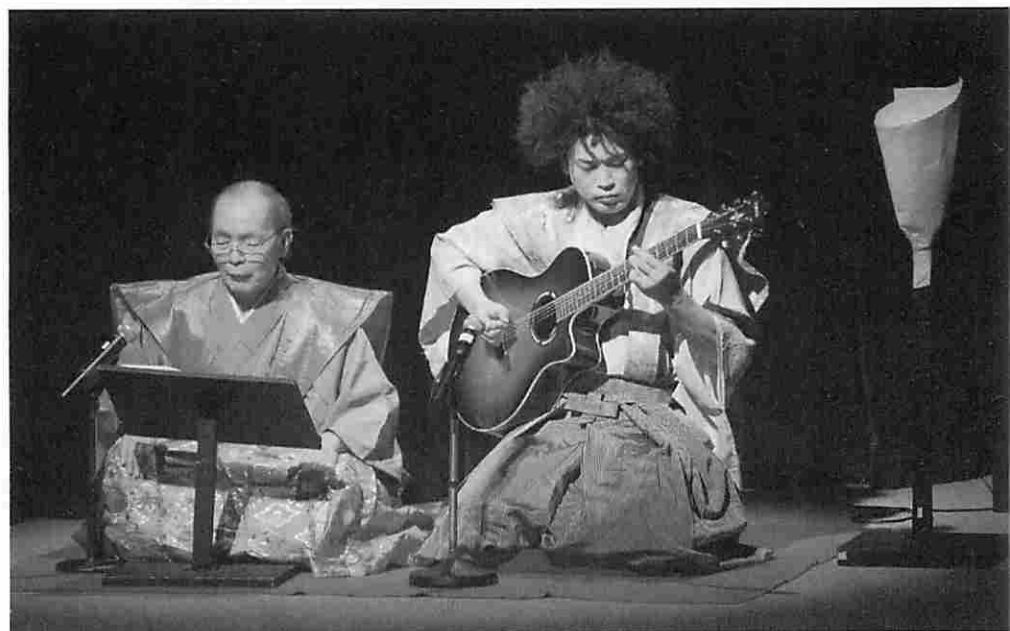
鈴木ムネオに扮した渡部さん

村人2とか刑事3、名前のある役は一度もつきませんでした。さすがの私も少々くさっていました。

三十歳をすぎた頃友人から、当時お笑いの登竜門だったテレビの「お笑いスター誕生」に出てみないかと誘われ、芝居の延長のような軽い気持ちでコントグループ「キモサベ社中」に参加し、お笑いの世界に入りました。そして今、社会風刺コント集団『ザ・ニユースペーパー』にいます。今年二十五周年となります。役者からお笑いにとちよつと道はずれましたが、政治家を演じたり、ニユースな人物を演じる事は楽しくて、今の私の生きがいです。

今、私は糖尿病で、透析したり、左足が義足だったりして、満身創痍で舞台上に立っています。でも、今が一番、充実しているような気がします。笑いは全てを救います。まだ皆さんは、四十年後の自分なんか想像できないでしょう。たつた一度しかない人生です。夢をもって、その夢を叶えてください。夢は叶えるものです。友達は数よりも、本当の友人を持ってください。物事は、いつも前向きに考えましょう。後を向いても何もいい考えは浮かびません。

これから前途ある未来に向かって、笑いのある楽しい人生を送って下さい。



2012年12月 銀座博品館劇場



# 桜陽会裏話

## 「庁女時代の思い出」

高二期 岩 城 博 子

明るい未来に夢と希望を胸に桜陽高校を卒業される皆様お目出とうございます。随分昔の話になりますが私が高校卒業した頃の事を少しお話致します。

それは今から六十三年も前、昭和二十五年三月の事です。私は戦争中、昭和十九年庁立高等女学校入学、戦後道立高女時代を経て昭和二十五年道立女子高校の二期生として卒業致しました。当時の学校は現菁園中学の所にあり木造建築の校舎で良妻賢母を育てる校風規律の厳しい女学校でした。

庁立女学校に入学し当時を知るのは高校一期二期卒業

の私達が最後になりました。昭和二十五年四月には桜陽高校と改称され男女共学現在地に新しい桜陽高校が建てられました。

私が卒業した頃は戦後の困難な時でしたが教育改革が次々と行われそれなりに楽しく学生時代を過ごしまし



校舎昇降口の梅

た。修学旅行も戦後初めて海を渡り十和田迄行きました。高度経済成長期の前で日本中がまだ貧しい時代、その日食すお米を小分けして持ち歩いた修学旅行でしたが沢山の思い出があります。今振り返ってみますとその当時の親はかなり無理して旅行に出してくれたんだと思います。

私達高二期の仲間は昭和二十三年卒業（旧女学校）、同二十四年（五年生）同二十五年卒業（高校）と三期に分かれており、それを一つにまとめ三桜会と名付け今に至っております。年一度は同期会を開き、遠い昔あれもこれも不足、不自由な時代にお互い助け、労り合った学友達の絆は強く、八十一、二才になる現在迄三桜会の集いは続いております。

一昨年はオーセントホテルに一泊、傘寿の祝会を開きました。全国から七十名が参集し昔話に夜の更ける迄語り合い、八十才になり華やかで楽しい会でした。私達一人一人桜陽会の会員である事を誇りに思っております。

御卒業の皆様桜陽会の会員になられた今、桜陽会行事に関心を持ち参加されて次の世代に残す同窓会として新しい歴史の一頁を作り続けて下さる事をお願い致します。

御卒業心よりお祝い申し上げます。



傘寿記念・三桜会 2011年9月15日 於 オーセントホテル小樽

# おやじの**眩**き

小樽桜陽高等学校26期卒業

東 田 朋 己

むかし先輩から「一度だけ人生をリセットし、好きな年代に戻れると言われたら、いつがいい？」と聞かれたことがある。その投げかけに対し、しばらく想いを巡らせて「高校時代がいいですね」と言ったことを覚えていゐる。何故、高校といったのか。その時の心境はすでに忘れてしまったが…。

保育所や幼稚園を除くと、一般的に学業の時期というのは、小学校から大学までだろう。その中で印象深い出来事が一番多かったのが、母校 桜陽高校での高校生活だった気がする。

最も高校時代は、一番バイタリティがあつて、明るく元気に過ごせたものだ。多分、高校生のように目にしたもの、耳にしたもの、触れたものなど、体験したもの全てが大人になった今、礎と感じるからではないだろうか。

高校時代に戻りたいと思つたのは、そんな忘れかけていた「バイタリティ溢れる明るく元気な自分」に戻りたいという思いの強さからだつたのかもしれない。もし今、もう一度同じ質問をされたら、間違いなく高校時代というであろうと思う。とくに最近、気力や体力が衰えはじめたから余計そう思うのかもしれない。

人は、年を積み重ねる毎に経年劣化が進む。気力も体力も衰え、挑戦することは極力避け、経験と実績という武器で「自分」を支え守ろうとするようになってくる。

高校時代のようなバイタリティ溢れる時代には、人の目（評価）を気にしながら一喜一憂してきたものののに、老練とまでは言わないが円熟してくると、自分が他人にどう映っているのかなんてことは気にする事も無くなつてくる気がする。現に私も最近では独立独歩の様相を呈している。しかし、時折、他人の目が気になるのも事実である。

これから社会人になっていく同窓生には、年をとつてもいつまでもバイタリティある小樽人であつてほしいとそう願う。

私は会社で社員を前に話をする機会がある。当然、作家ではないのでいつもネタ探しに奔走する。

「話のネタ」は、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌や人から聞いた話などがエキスである。なかでも人の話は興味深いものが多い。一つだけ紹介したい。

自分の身なりを直すためには、人はまず鏡の前に立つ。鏡は正直である。ありのままにそこに映し出す。自分のネクタイは曲がついていないと、頑固に言い張る人でも、鏡の前に立てば、その曲線は一目瞭然である。だから人は、その過ちを認めこれを直す。

身なりは鏡で正せるとしても、心の歪みまでも映し出しはしない。だから、人はとかく、自分の考えや振る舞いの誤りが自覚にくい。

「心の鏡」がないのだから、ムリもないといえればそれまでだが、けれど求める心、謙虚な心さえあれば「心の鏡」は随処にある。

自分の周囲にある物、いる人、これすべて我が心の反映である。「我が心の鏡」である。すべての物が我が心を映し、すべての人が我が心につながっているのである。いにしえの聖賢は「まず自分の目から梁を取り除けよ」と教えた。もう少し周囲を良く見たい。もう少し周囲の人の声に耳を傾けたい。この謙虚な心、素直な心があれば、人も物もみな「我が心の鏡」として、自分の考え、

自分の振る舞いの正邪が、そこにありのままに映し出されてくるであろう。かの松下幸之助氏の言葉である。

一人ひとりに「心」があるはず。心を持たない人間などいないと思う。

あなたの心は相手という鏡に映し出されているという幸之助の言葉は、漫然と時間を過ごし、自らの装いに気配りもしなくなりかけた私自身に重たく響いてきた。

自分の心を正し、自分が変わらなくて相手の心を変えられるだろうか？

厳しい時代であればこそ、変革し成長していかなければならない、私はそう信じている。

社会のシガラミに染まる前に、「心の鏡」に気がついて、映し出されている「ありのままの自分」を見つけてほしい。きつと、皆さんの明日が見えてくるであろう。



# クラブ活動報告

## 全道大会

空手部

・高体連全道大会

個人形 藤野

2回戦敗退

柔道部

・高体連全道大会

男子60kg級

中村

2回戦敗退

男子66kg級

大沼・遠山

1回戦敗退

男子73kg級

林・三野

1回戦敗退

男子81kg級

堀田

1回戦敗退

女子48kg級

奥田

2回戦敗退

女子52kg級

上島

1回戦敗退

女子63kg級

木田

1回戦敗退

・全北海道ジュニア体重別選手権大会

男子55kg級

遠山

1回戦敗退

男子60kg級

中村・大沼

2回戦敗退

男子66kg級

三野

2回戦敗退

男子73kg級

林

1回戦敗退

男子81kg級

太田・下間

2回戦敗退

男子81kg級

堀田

2回戦敗退

女子44kg級 奥田

女子52kg級 上島

・国体北海道予選会

男子60kg級 中村

女子48kg級 奥田

女子52kg級 上島

女子70kg級 木田

剣道部

・高体連全道大会

女子個人戦 真崎

1回戦敗退

弓道部

・高体連全道大会

女子団体戦

女子個人戦 藤原

・北海道選抜大会

女子団体戦

女子個人戦 藤原・笠島

卓球部

・高体連全道大会

個人・女子ダブルス

磯野・山本組

宮崎・清水組

ソフトテニス部

・高体連全道大会

女子個人(ダブルス)

長濱・山内

川瀬・渡辺

3位

ベスト16進出

・北海道新人大会

女子個人(ダブルス)

大橋・長濱

女子個人(シングルス)

長濱

テニス部

・秋季全道大会

女子シングルス

山本李歩

女子ダブルス

山本李歩・橋本和子組

バスケットボール部

・高体連全道大会

男子・女子

・国体全道大会

男子2回戦敗退

女子2回戦敗退

・国体全道大会

男子2回戦敗退

女子2回戦敗退

・選抜全道大会

男子・女子

バドミントン部

・高体連全道大会

女子ダブルス

女子シングルス

池・西川

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

2回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

1回戦敗退

|             |       |         |
|-------------|-------|---------|
| ・国体北海道予選会   | 池・西川  | 2回戦敗退   |
| 女子ダブルス      |       |         |
| ・道選手権       |       |         |
| 男子ダブルス      | 原田・北本 | 1回戦敗退   |
| 女子ダブルス      | 池・西川  | ベスト16進出 |
| 男子シングルス     | 北本    | 2回戦敗退   |
| 女子シングルス     | 池     | 2回戦敗退   |
|             | 西島    | 1回戦敗退   |
| ・北海道新人大会    |       |         |
| 男子団体        |       | 2回戦敗退   |
| 女子団体        |       | ベスト8    |
| 男子ダブルス      | 原田・北本 | 2回戦敗退   |
| 女子ダブルス      | 西嶋・池  | 2回戦敗退   |
| 女子シングルス     | 池     | 2回戦敗退   |
| 男子バレーボール部   |       |         |
| ・選手権大会北海道予選 |       | 1回戦敗退   |

# 水 泳

## ・高体連全道大会

男子50m・100m自由形

菊池 予選敗退

男子100・200m平泳ぎ

西岡 予選敗退

男子100m背泳ぎ

和賀 6位

男子100mバタフライ

吉田 予選敗退

男子200m個人メドレー

和賀・吉田 予選敗退

男子400m・800mリレー

8位

男子400mメドレーリレー

6位

女子50m・100m自由形

酒井 予選敗退

女子100mバタフライ

和賀 予選敗退

女子100m背泳ぎ

松本 予選敗退

女子200m背泳ぎ

和賀 予選敗退

## 陸 上 部

## ・高体連全道大会

女子100m

奥田 7位

女子200m

奥田・釣賀 予選敗退

女子400m

釣賀 予選敗退

女子1000m

下山 8位

女子400m

細田・月館 準決勝敗退

女子走幅跳び

高橋 予選敗退

女子やり投げ

下山 予選敗退

女子800m・1500m

松浦 予選敗退

女子4×100mリレー

松浦 予選敗退

女子4×400mリレー

(月館・下山・細田・奥田) 準決勝敗退

男子100m

(細田・月館・釣賀・下山) 準決勝敗退

男子200m・400m

小野 予選敗退

男子800m・1500m

三浦・木村・小野 予選敗退

男子400m

後藤 予選敗退

男子4×100mリレー

木村 予選敗退

男子4×400mリレー

(後藤・三浦・木村・小野) 予選敗退

(後藤・三浦・木村・小野) 予選敗退

女子4×100mリレー

(月館・下山・細田・奥田) 予選敗退

男子400m

小野 予選敗退

女子やり投げ

松浦 予選敗退

## ・南部記念大会

女子400m

小野 予選敗退

男子400m

松浦 予選敗退

女子やり投げ

松浦 予選敗退

## ・北海道選手権大会

男子400m

小野 予選敗退

女子やり投げ

松浦 予選敗退

・国体北海道予選会

少年男子A 400m

小野

準決勝敗退

少年女子共通 やり投げ

松浦

5 位

・北海道新人大会

男子200m、400m

小野

予選敗退

女子400m

高橋

予選敗退

女子やり投げ

松浦

4 位入賞

女子800m、1500m

美輪

予選敗退

女子200m

久保田

予選敗退

女子4×100mリレー

(美輪・久保田・高橋・中村)

予選敗退

ラグビー部

・高体連全道大会

1 回戦敗退 (潮陵高校と合同チーム)

・全国女子7人制大会北海道ブロック予選会

池亀・菊池

参加

・全道7人制大会

ボート部

・高体連全道大会

男子ダブルスカル

土橋・八重樫

3 位

男子シングルスカル

山田

準決勝敗退

女子シングルスカル

阿部

3 位

・国体北海道予選会

男子ダブルスカル

土橋・八重樫

4 位

男子シングルスカル

山田

3 位

女子ダブルスカル

阿部・大橋

3 位

・高校新人全道大会

男子ダブルスカル

土橋・八重樫

1 位

男子シングルスカル

土橋

1 位

女子ダブルスカル

阿部・大橋 (全国大会進出)

女子ダブルスカル

阿部・大橋 (全国大会進出)

ソフトボール部

・高体連全道大会

1 回戦敗退 (俱知安高校と合同チーム)

・国体北海道予選会

1 回戦敗退 (俱知安高校と合同チーム)

・選抜新人大会

1 回戦敗退 (俱知安高校と合同チーム)

山岳部

・高体連全道大会

男子・女子 2 日目リタイア

美術部

・高文連全道美術研究会

天谷 (全道入選作品)

本間 (全道優秀作品)

放送局

・高文連全道大会

アナウンス部門

伊藤 (全国大会進出)

朗読部門

森田

佐藤

13 位

松浦

山田

48 位

テレビドキュメント部門

テレビドラマ部門

ラジオドキュメント部門

ラジオドラマ部門

ラジオドラマ部門

16 位

41 位

21 位

22 位

50 位

18 位

10 位

全国大会

放送局

・高文連全国大会

アナウンス部門

伊藤

出場

# 桜陽会会則

## 第一章 総則

第一条 本会は桜陽会と称し事務局を小樽市長橋三一九一

小樽桜陽高等学校内におく。

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、母校発展に寄与する。

第三条 本会は左に掲げる事項を行う。

一、新入会員入会式及び会員の研修

二、会報発行及び名簿発行

三、母校諸行事の後援

四、その他目的とする事業

## 第二章 会 員

第四条 左の各号にあたるものは正会員とする。

一、北海道庁立小樽高等女学校本科卒業生並びに同校

補修科終了生

二、北海道立小樽女子高等学校卒業生並びに同校併置

中学校卒業生

三、北海道小樽桜陽高等学校卒業生

四、前各号の中途退学者中の希望者のうちで常任理事会

で承認した者

第五条 左の各号にあたるものは特別会員とする。

一、母校の現職員

二、母校の旧職員

## 第三章 役 員

第六条 本会は次の役員をおく。

一、顧問及び相談役 若干名

二、名誉会長 一名

三、会 長 一名

四、副会長 若干名

五、監 事 二名

六、幹事長 一名

七、会 計 二名

八、事務局 若干名

九、理 事 各期より若干名

十、常任理事 若干名

十一、総会当番幹事 若干名

第七条 役員は次の任務を行なう。

一、顧問、相談役、名誉会長は会の相談に応ずる。

二、会長は本会を代表し会務を総括する。また必要に応じて小委員会を設置することができる。

三、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその職務を代行する。

四、監事は会計並びに会務を監査する。

五、幹事長は本会の総務を処理する。

六、会計は本会の会計を処理する。

七、事務局は本会の庶務を処理する。

八、理事は各期会員を代表し重要事項の審議及び同期会

員への連絡にあたる。



九、常任理事会は会の運営に参加し会務の分担処理にあたる。

十、総会当番幹事は総会の準備にあたり常任理事会に出席し発言できる。但し議決権はない。

第八条 役員の任期は次の通りとする。

一、役員の任期は一年とし重任は妨げない。

二、役員欠員が生じた時はその補充を定め任期は前任者の残任期間とする。

第九条 役員は次の方法により選出する。

一、会長、副会長及び監事は総会において選出する。

二、幹事長、会計及び事務局は常任理事のうちから会長がこれを委嘱する。

三、理事は同期会員のうちから選出する。

四、常任理事は理事のうちから理事会において選出する。

五、名誉会長に母校校長を推す。

六、顧問は会長退任者がこれにあたる。

七、相談役は副会長退任者及び長年にわたり本会に貢献した理事、常任理事中より会長、副会長合議の上、会長がこれを委嘱する。

#### 第四章 集 会

第十条 定期総会、臨時総会、理事会及び常任理事会の集会はいずれも会長が招集する。

第十一条 定期総会は年度はじめに開き次の報告、議決を行なう。

一、事業報告

二、決算報告

三、事業計画及び予算案の審議

四、役員の改選

五、その他

#### 第五章 会 計

第十二条 本会の経費は左の収入を以ってこれに充てる。

一、会費収入

二、寄付金及びその他の収入

第十三条 新入会員は左の会費を納入するものとする。

一、入会費 四千元

第十四条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり三月末日に終る。

第十五条 本会の資産及び会計は帳簿及び目録により管理し、常にその収支並びに所在を明らかにしておかなければならない。

第十六条 資産及び収入中の現金は郵便貯金、銀行預金または有価証券等確実な機関に預入し、会長がこれを管理する。

#### 第六章 補 足

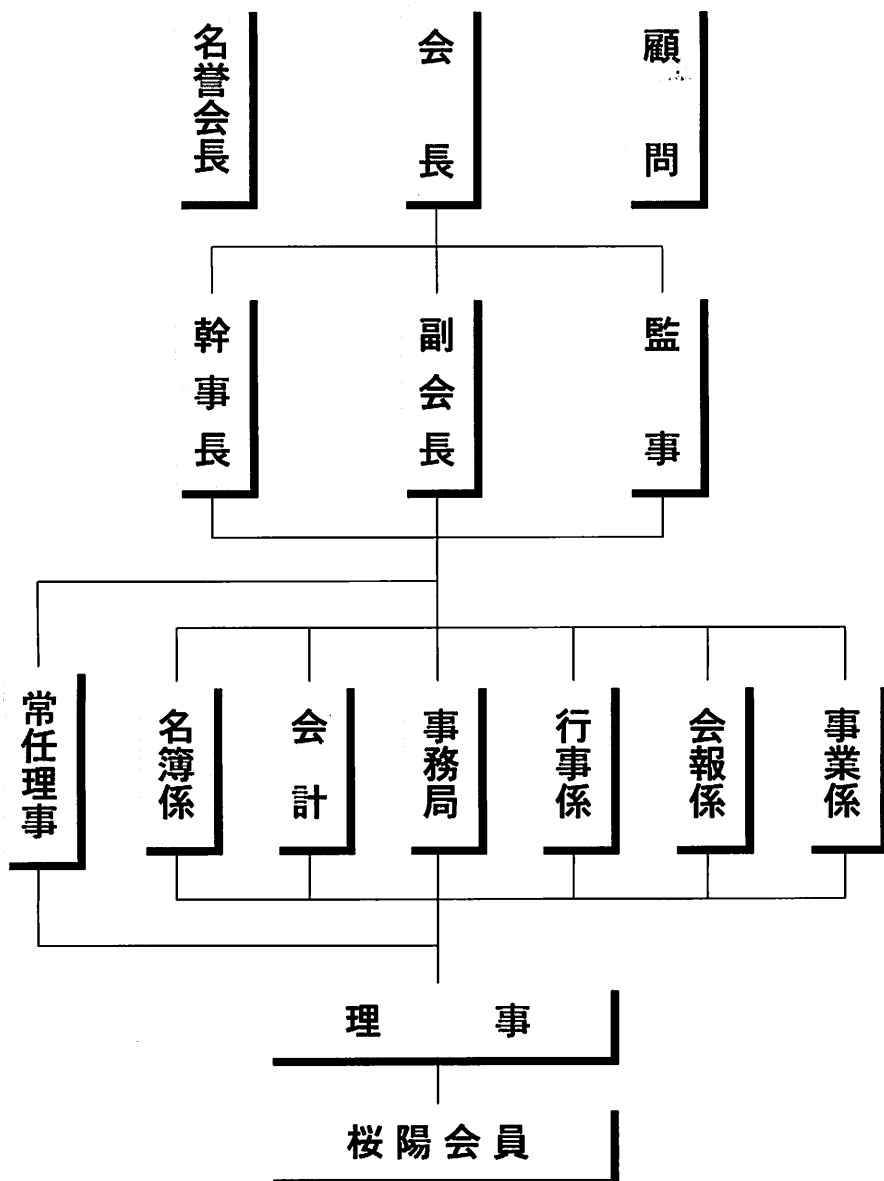
第十七条 本会則の変更は総会の議決を要する。

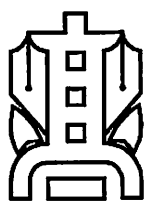
第十八条 本会は支部を設置することができる。

#### 附 則

一、この会則は平成十年六月二十六日から施行する。

## 桜陽会役員機構図





2013.3.1